



井手伸介さんは長崎市中尾地区の山あい、家族とともにみかん農家を営んでいる。井手さんが父の跡を継ぐことを決意したのは小学四年生のとき。家に届いた美味しいみかんへの感謝が綴られた手紙を読んだ井手さんは、家族の目の前で家業を継ぐことを宣言したという。一通の手紙は井手さんに食べる人の顔が見えることの喜びを伝えてくれた。

それ以来、井手さんはひたすら直接販売の道を模索し続けた。どんなに美味しいみかんを作っても、山奥に置いてあるだけでは気付いてもらえない。もちろんホームページを立ち上げただけでは売れるはずもない。知ってもらうために必要なのは、自分たちがお客様のもとへ出向くか、お客様に来ていただくか、そのどちらかしかない。

井手さんは、県内はもとより都会で開催される物産展へ出掛ける一方、自宅を開放してイベントを開催。県内の陶芸家とコラボした作陶展、母順子さんの知恵が詰まった梅干し教室・柚子こしよう教室、みかん畑で行うヨガ教室など、農家の常識を覆す様々なアイデアを実行に移した。

この取り組みは見事に成功。イベントに集まった人たちは美味しいみ

かんを味わい、井手果樹農園のファンになって帰ってゆく。こうして開拓した顧客が今や千二百人。井手さんは彼らにダイレクトメールや農園の近況を知らせる「しんちゃん通信」を届け、次の注文につなげている。

こだわりは「販売」だけではない。みかん畑に行くと、井手さんの口からはマグネシウム、カルシウム、アミノ酸、グルタミン酸、魚粉……などなど、美味しいみかんを作るためのキーワードが次々に飛び出してくる。しかし井手さんはこう笑う。「いつだったか、八十歳のおじいちゃんが『ようやく思い通りのみかんができた』と言っているのを見て、農業は一生勉強だという言葉をかみしめました。僕なんか十四回目ですから、まだまだですね」。

井手さんが目指すのは「ひとつ食べたら、またもうひとつ食べたくなる」そんなみかんを作ること。そしてそのみかんに自分で値段をつけて、直接お客様に届けること。「僕のやり方を学ぼうと、農園には若い研修生も訪れます。自分が成功すれば、若い人の光になります」と力強く話す姿は本当に頼もしい。

一通の手紙から始まった夢は、まだまだ続いてゆく。

## 井手果樹農園

# 井手

Shinsuke Ide

# 伸介さん



いでしんすけ  
1980年、長崎市田中町生まれ。「井手果樹農園」四代目。18種類のみかんを中心にキウイフルーツや梅などを栽培。「生産者と消費者のお互いの顔が見える農業」を目指し、家族で協力しながらインターネット販売をはじめ様々な取り組みを実践している。高校や大学で講演を行うなど、農業を志す若者の育成にも力を入れている。

井手果樹農園  
長崎市田中町2731  
TEL.095-838-3547

井手果樹農園 検索



伸介さんを中心に、家族みんなでみかんを育てている井手果樹農園。左から父重義さん、伸介さん、妻仁美さん、母順子さん、息子一穂くん。

美味しいみかんを

お客様へ直接届けたい。

